

海外動向

3rd International Conference on ROBUST QUALITY ENGINEERING への参加及び Best Paper 賞受賞の報告



細川哲夫*

品質工学の国際大会である ICRQE に参加したので報告する。ICRQE は今回が 3 回目の開催であり、筆者は初めて参加した。参加の目的は、最新の開発技法 CS-T 法 (Causality Search T-Method) を海外に紹介すること、及び海外での品質工学活用状況を知ることである。なお、この原稿をほぼ書き終えた後に、主催の Prof. A.K. Chaudhuri から、われわれの論文が Best Paper に選ばれたとのメール連絡が来た。CS-T 法が海外でも認められたことを嬉しく思う。メールに添付されていた表彰状を添付する。

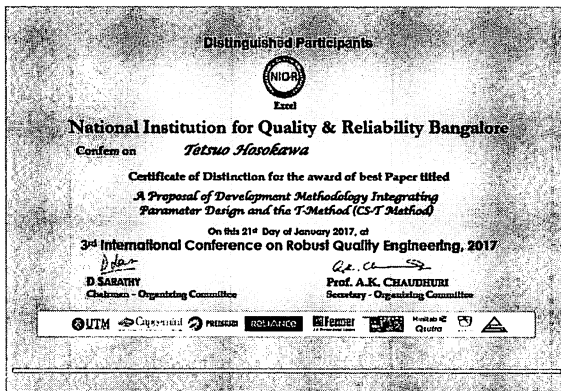


図1 ベスト・ペーパー賞受賞

1. 概要

海外の状況とは言っても発表者、参加者のほとんどがインド人であり、実質的にはインドにおける品質工学活用状況の報告である。日本からの参加は田口伸 (ASI)、福田収一 (スタンフォード大学) と筆者で合わせて 3 名であった。その他、マレーシアから UTM 大学、田口研究センターの Prof. S.M.YUSOF からも参加した。

開催期間：2017.01.19 ~ 21

開催場所：インド Mumbai Reliance Energy Management Institute

今回は発表の前の 16, 17 日に田口伸によるロバストエンジニアリングのワークショップ、18 日に Dr. R. Juglum による MT 法のワークショップが開



図2 正門から見た会場建物

* (株)リコー